



平成30年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年10月10日

上場会社名 ダイユー・リックホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3546 URL http://www.daiyulic-hd.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 浅倉 俊一  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営戦略室長 (氏名) 三瓶 善明 (TEL) 024-563-6818  
 四半期報告書提出予定日 平成29年10月16日 配当支払開始予定日 平成29年11月6日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年2月期第2四半期の連結業績(平成29年3月1日~平成29年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年2月期第2四半期	39,787	—	1,367	—	1,475	—	995	—
29年2月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 30年2月期第2四半期 1,023百万円(—%) 29年2月期第2四半期 一百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年2月期第2四半期	67.49	67.17
29年2月期第2四半期	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年2月期第2四半期	55,571	13,384	22.2
29年2月期	52,381	12,557	22.0

(参考) 自己資本 30年2月期第2四半期 12,340百万円 29年2月期 11,534百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年2月期	—	—	—	13.00	13.00
30年2月期	—	13.00	—	—	—
30年2月期(予想)	—	—	—	13.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年2月期の連結業績予想(平成29年3月1日~平成30年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	79,000	—	1,800	—	1,930	—	1,200	—	81.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 —社(社名)— 、除外 —社(社名)—

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年2月期2Q	15,174,203株	29年2月期	15,174,203株
② 期末自己株式数	30年2月期2Q	428,567株	29年2月期	427,483株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年2月期2Q	14,746,238株	29年2月期2Q	—株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(会計上の見積りの変更)	11
(セグメント情報等)	12
(企業結合等関係)	13
4. その他	14
継続企業の前提に関する重要事象等	14

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（平成29年3月1日～平成29年8月31日）におけるわが国経済は、上場企業の配当額が5年連続で過去最高を更新する等、企業収益の改善・雇用の拡大もあって景気は緩やかながら回復基調を維持しております。

一方で、原油価格の下落、新興国経済の減速や保護主義的な政策動向を背景とした世界経済の不安定化のほか、日本銀行によるマイナス金利政策実施の影響も見通せず、依然として先行き不透明な状況が続いております。

個人消費は、消費税率引き上げ後の需要の弱さを可処分所得の増加でカバーできない構図から横ばいの状況にあり、“低価格志向・節約志向”といった消費マインドも根強く、本格的な個人消費の回復には至っていない状況にあります。

このような状況下、当社グループは、経営統合後のシナジー効果創出のため、商品統合により着実に荒利益率の改善を進めているほか、さらなる成長戦略実現に向け当第2四半期連結累計期間におきましても以下のとおり積極的に新規出店を行いました。

ダイユーエイト	ホームセンターダイユーエイト白河店	(開店3月 福島県)
	ワンズサイクル会津若松駅前店	(開店3月 福島県)
	ワンズサイクル須賀川店	(開店6月 福島県)
	ホームセンターダイユーエイト南三陸店	(開店7月 宮城県)
アミーゴ	ペットワールドアミーゴ小名浜店	(開店3月 福島県)
	ペットワールドアミーゴ古川駅前店	(開店8月 宮城県)
ジョーカー	DOG&CAT JOKER 東急百貨店たまプラーザ店	(開店3月 神奈川県)
	DOG&CAT JOKER WANCOTT店	(開店3月 神奈川県)

一方、店舗老朽化と市場環境の変化から4店舗を閉鎖いたしました結果、当第2四半期連結会計期間末の店舗数は186店舗となりました。

また、3月1日には、ダイユーエイト及びリックコーポレーションのペット事業を統合・分社化して(株)アミーゴを設立したほか、(株)アレンザ・ジャパン（輸入卸売事業）を完全子会社としたことで、一連のグループ内組織再編が終了いたしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループ（当社及び連結子会社）の連結売上高は、397億8千7百万円、連結営業利益は13億6千7百万円、連結経常利益は14億7千5百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は9億9千5百万円となりました。なお、当社は、平成28年9月1日に設立したため、前年同四半期連結累計期間との対比は行っておりません。

セグメント業績は次のとおりであります。

#### [ダイユーエイト]

ホームセンター事業は、既存店ベースで、客単価が前年同期比で2.0%増加しましたが、来店客数が前年同期比で1.9%減少したことから、既存店売上高は0.1%の微増となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、春先は、灯油販売額が伸張するような低温と天候不順により季節商品販売の出足が鈍い状況にありましたが、ゴールデンウィークを境にようやく気温が上昇し、園芸・植物、用土、肥料等の売上が伸張いたしました。夏場も長期予報に反し長雨・冷夏となり、季節商品の販売が苦戦いたしました。一方で、当社が注力しております木材塗料、工具金物、作業資材、作業衣料等のホームニーズ関連商品が前年対比で売上を伸ばしたほか、HD創立1周年記念感謝セールがお客様からご支持いただき、日用品・家庭用品等の売上も堅調に推移いたしました。

また、今期は、他業態との差別化を念頭に、従来から進めておりました「ホームセンターらしさ」を一層強化するため、農業関連素材用品の専門バイヤーを配置し、農家需要へ対応すべく品揃えを強化いたしました。その他、防犯防災用品の強化に努めたほか、新商品の導入や、メーカーフェア等新企画の増加により、お客様に対し需要創造を喚起いたしました。

これらの結果、ダイユーエイトにおけるセグメント売上高は204億2千2百万円、セグメント利益（営業利益）は7億2千3百万円となりました。

[リックコーポレーション]

ホームセンター事業は、既存店ベースで、客単価が前年同期比で0.1%の減少、客数が前年同期比で横這いであったため、既存店売上高は0.1%減少いたしました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、天候に恵まれた日が続いたことにより用土・園芸肥料等の園芸・植物の売上高は好調に推移いたしました。また、シーズン前半に好調であった季節商品は、夏物家電やレジャー用品等を中心に低迷いたしました。また、ハッピープライス（生活応援品の月間特売）、チラシ掲載商品の価格訴求、各種キャンペーン等を強化したことが、お客様が購入される販売点数の増加につながりました。一方で、お客様の節約志向が続いている中、「広島商工センター店リニューアル1周年」「伊予三島店オープン20周年」等の促進に努めましたが、売上高及び客数は前年未達となりました。

そのような状況の中、お客様から更なるご支持をいただくために、シニアデー5%割引セールや夏のトラベルキャンペーン、カード会員を対象とした内見会を行った他、新たにシニア会員限定スタンプラリーを開始する等、ロイヤルカスタマー政策を実行いたしました。また、教育プロジェクトでは、様々なお客様のご要望にお応えするための教育や各種研修はもとより従業員の資格取得を推進する等、人材育成を図っております。経費削減の取組みにつきましては、作業に応じた人員の配置、残業時間の大幅な削減実施等により、間接部門のコスト圧縮を図っております。

これらの結果、リックコーポレーションにおけるセグメント売上高は81億8千万円、セグメント利益(営業利益)は3億1千万円となりました。

[アミーゴ]

アミーゴは、ダイユーエイト、リックコーポレーションのペット事業を統合・分社化し、3月1日より全国60店舗体制で事業をスタートいたしました。

売上高における既存店ベースでは、客単価が前年同期比で0.4%の増加、客数が前年同期比微増であったことから、既存店売上高は0.4%増加いたしました。

ペットの健康、美容にこだわりを持つお客様が増加傾向であることから、主力商品であるプレミアムフードを中心とした専門店商品の販売に注力したこと、マイクロバブル、炭酸泉といったトリミングに付加価値をプラスしたサービスの普及が進んだこと等により客単価は伸長しております。一方で、他業態を含む競合他社による新規出店、価格競争の激化により、消耗品の販売数は減少いたしました。

そのような状況の中、ダイユーエイト、リックコーポレーション両社の仕組み・ノウハウを継承したアミーゴは、それぞれの取り組み、サービスを水平展開し、全店統一したサービスの実現、接客知識、技術向上に努めております。また、従来の愛玩動物である犬、猫に加え、飼育しやすくトレンドになっているウサギなどの小動物、爬虫類の販売強化、各種イベントの強化により、量販店とは一線を画した店舗づくりを目指し、専門知識を有した人材育成に取り組む等、更なる集客力の向上に努めております。

これらの結果、アミーゴにおけるセグメント売上高は78億8千7百万円、セグメント利益(営業利益)は1億8千6百万円となりました。

[その他]

セグメント売上高は65億4千万円、セグメント利益(営業利益)は4億2百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の財政状態としましては、総資産が555億7千1百万円、負債が421億8千6百万円、純資産は133億8千4百万円となりました。以上の結果、自己資本比率は22.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、平成29年4月14日付「平成29年2月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」において公表しました業績予想値に変更ありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更)

第1四半期連結会計期間より、連結子会社である株式会社アミーゴが運営するペット専門店の一部において、通常の販売目的で保有するたな卸資産について、従来、売価還元法による低価法を採用していましたが、売価還元法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）に変更しております。

これは平成29年3月1日付で株式会社ダイユーエイトおよび株式会社リックコーポレーションがそれぞれ営むペット事業を統合・分社化したことにより店舗運営の統一性、効率性を高めることを目的として、仕入・物流・販売に係る基幹システムを変更したことに伴うものであり、平成29年3月1日より新基幹システムが本稼動したことによるものであります。

これにより、従来の方法と比べて、当第2四半期連結累計期間の売上総利益、営業総利益、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益が51,823千円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,105,454	6,943,827
売掛金	555,727	703,041
たな卸資産	13,664,261	14,136,438
その他	1,679,844	1,688,574
貸倒引当金	△3,213	△2,836
流動資産合計	21,002,074	23,469,044
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	30,006,349	30,686,940
減価償却累計額	△17,870,448	△18,228,765
建物及び構築物（純額）	12,135,900	12,458,174
土地	4,327,385	4,317,532
リース資産	2,640,333	2,797,963
減価償却累計額	△1,115,894	△1,237,502
リース資産（純額）	1,524,438	1,560,460
その他	2,885,090	3,524,662
減価償却累計額	△1,533,404	△1,581,876
その他（純額）	1,351,686	1,942,785
有形固定資産合計	19,339,411	20,278,953
無形固定資産		
のれん	2,395,236	2,333,819
その他	1,893,131	1,913,045
無形固定資産合計	4,288,367	4,246,865
投資その他の資産		
敷金及び保証金	5,361,147	5,290,951
その他	2,452,392	2,347,334
貸倒引当金	△62,185	△62,085
投資その他の資産合計	7,751,355	7,576,201
固定資産合計	31,379,133	32,102,019
資産合計	52,381,208	55,571,064

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,688,948	5,105,829
電子記録債務	3,000,477	5,880,671
短期借入金	4,550,000	2,350,000
1年内返済予定の長期借入金	4,374,749	4,391,710
リース債務	530,194	547,912
未払法人税等	259,836	559,001
ポイント引当金	293,980	286,847
転貸損失引当金	46,712	46,212
その他	3,336,870	4,722,064
流動負債合計	21,081,768	23,890,248
固定負債		
長期借入金	13,975,625	13,578,397
リース債務	1,280,870	1,325,776
役員退職慰労引当金	71,670	74,945
転貸損失引当金	40,259	17,153
退職給付に係る負債	432,382	443,301
資産除去債務	973,424	976,055
その他	1,967,659	1,880,223
固定負債合計	18,741,892	18,295,852
負債合計	39,823,660	42,186,100
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金	4,375,368	4,375,368
利益剰余金	5,249,950	6,053,588
自己株式	△164,809	△165,662
株主資本合計	11,460,509	12,263,294
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	91,512	91,196
退職給付に係る調整累計額	△17,655	△13,648
その他の包括利益累計額合計	73,856	77,547
新株予約権	41,614	41,614
非支配株主持分	981,566	1,002,507
純資産合計	12,557,547	13,384,963
負債純資産合計	52,381,208	55,571,064

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)
売上高	39,787,275
売上原価	26,679,113
売上総利益	13,108,161
営業収入	1,364,442
営業総利益	14,472,604
販売費及び一般管理費	13,104,746
営業利益	1,367,857
営業外収益	
受取利息	16,608
受取配当金	4,917
受取手数料	178,603
その他	65,949
営業外収益合計	266,079
営業外費用	
支払利息	101,065
借入手数料	40,343
その他	16,706
営業外費用合計	158,114
経常利益	1,475,822
特別利益	
固定資産売却益	6,492
受取損害賠償金	46,015
受取補償金	78,594
その他	2,037
特別利益合計	133,139
特別損失	
固定資産除却損	8,229
減損損失	5,509
その他	4,437
特別損失合計	18,176
税金等調整前四半期純利益	1,590,785
法人税、住民税及び事業税	586,816
法人税等調整額	△15,980
法人税等合計	570,835
四半期純利益	1,019,949
非支配株主に帰属する四半期純利益	24,604
親会社株主に帰属する四半期純利益	995,345

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)
四半期純利益	1,019,949
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△304
退職給付に係る調整額	4,007
その他の包括利益合計	3,702
四半期包括利益	1,023,652
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	999,036
非支配株主に係る四半期包括利益	24,615

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	1,590,785
減価償却費	824,707
減損損失	5,509
のれん償却額	61,416
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△477
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	16,990
受取利息及び受取配当金	△21,526
支払利息	101,065
借入手数料	40,343
受取損害賠償金	△46,015
受取補償金	△78,594
固定資産売却損益(△は益)	△6,492
固定資産除却損	8,229
売上債権の増減額(△は増加)	△147,313
たな卸資産の増減額(△は増加)	△472,177
仕入債務の増減額(△は減少)	3,297,075
未払消費税等の増減額(△は減少)	92,988
その他	283,207
小計	5,549,721
利息及び配当金の受取額	11,621
利息の支払額	△97,699
借入手数料の支払額	△31,461
損害賠償金による収入	46,015
法人税等の支払額	△280,282
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,197,915
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△868,806
有形固定資産の売却による収入	599,162
有形固定資産の除却による支出	△14,612
無形固定資産の取得による支出	△11,734
敷金及び保証金の差入による支出	△125,893
敷金及び保証金の回収による収入	221,585
定期預金の預入による支出	△222,721
定期預金の払戻による収入	253,902
その他	△63,238
投資活動によるキャッシュ・フロー	△232,357

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△2,200,000
長期借入れによる収入	1,855,000
長期借入金の返済による支出	△2,235,267
リース債務の返済による支出	△275,865
社債の償還による支出	△45,800
配当金の支払額	△189,543
自己株式の取得による支出	△853
非支配株主への配当金の支払額	△3,675
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,096,004
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,869,553
現金及び現金同等物の期首残高	4,579,508
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,449,061

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

第1四半期連結会計期間より、連結子会社である株式会社アミーゴが運営するペット専門店の一部において、通常の販売目的で保有するたな卸資産について、従来、売価還元法による低価法を採用していましたが、売価還元法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）に変更しております。

これは平成29年3月1日付で株式会社ダイユーエイトおよび株式会社リックコーポレーションがそれぞれ営むペット事業を統合・分社化したことにより店舗運営の統一性、効率性を高めることを目的として、仕入・物流・販売に係る基幹システムを変更したことに伴うものであり、平成29年3月1日より新基幹システムが本稼動したことによるものであります。

これにより、従来の方法と比べて、当第2四半期連結累計期間の売上総利益、営業総利益、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益が51,823千円増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 当第2四半期連結累計期間(自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計
	ダイユー エイト	リックコーポ レーション	アミーゴ	計		
売上高(注)2						
外部顧客への売上高	20,159,417	8,007,559	7,887,629	36,054,605	5,097,112	41,151,718
セグメント間の内部 売上高又は振替高	262,879	173,422	—	436,302	1,443,850	1,880,153
計	20,422,297	8,180,981	7,887,629	36,490,907	6,540,963	43,031,871
セグメント利益	723,854	310,924	186,056	1,220,835	402,290	1,623,125

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ダイユー・リックホールディングスにおける取引等のほか、ダイユー・リックホールディングス、ダイユーエイト、リックコーポレーション及びアミーゴそれぞれの関係会社が含まれています。

(注)2 売上高には、営業収入を含めております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,220,835
「その他」の区分の利益	402,290
セグメント間取引消去	△217,834
のれんの償却額	△61,416
固定資産の調整額	27,882
その他	△3,900
四半期連結損益計算書の営業利益	1,367,857

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より連結子会社であった株式会社アミーゴに対して、3月1日付でダイユーエイト、リックコーポレーション両社のペット事業を会社分割したことにより「アミーゴ」を新たに報告セグメントに含めております。

また、前連結会計年度において、報告セグメントとしていた「日敷」は、量的な重要性が乏しくなったため、「その他」に含めて記載する方法に変更しております。これにより、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントにおいて、「日敷」の売上高32億1千8百万円、セグメント利益6千8百万円が減少しており、「その他」が同額増加しております。

4. 報告セグメントごとの資産に関する情報

前連結会計年度より連結子会社であった株式会社アミーゴに対して、3月1日付でダイユーエイト、リックコーポレーション両社のペット事業を会社分割したことにより「アミーゴ」を新たに報告セグメントに含めております。

当該会社分割により、「ダイユーエイト」の資産の金額が547百万円減少、「リックコーポレーション」の資産の金額が4,233百万円減少し、「アミーゴ」の資産の金額が4,780百万円増加しております。

(企業結合等関係)

1. 企業結合における暫定的な会計処理の確定

平成28年9月1日に行われた株式会社リックコーポレーションとの企業結合について前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当第2四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されており、暫定的に処理されたのれんの修正額は、次のとおりであります。

修正項目	のれんの修正金額
のれん(修正前)	2,565,540 千円
その他(無形固定資産)	△156,000 "
繰延税金負債	47,112 "
修正金額合計	△108,888 "
<hr/>	
のれん(修正後)	2,456,652 千円

この結果、暫定的に算定されたのれんの金額2,565,540千円は、会計処理の確定により108,888千円減少し、2,456,652千円となっております。また、前連結会計年度末の無形固定資産の「その他」が152,100千円増加し、無形固定資産の「のれん」が106,165千円、投資その他の資産の「その他」に含まれる繰延税金資産が45,934千円減少しております。

2. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれんの金額

2,456,652千円

(2) 発生原因

取得原価が企業結合時の時価純資産額を上回ったため、その超過額をのれんとして計上しております。

(3) 償却方法及び償却期間

20年にわたる均等償却

#### 4. その他

継続企業の前提に関する重要事象等  
該当事項はありません。